

総合計画の指標設定・進行管理の基本的考え方

第五次須坂市総合計画をひと言でいうと…、

「今後10年間でみんながめざす将来像と実現のための取組み」です。

第五次須坂市総合計画の指標設定・進行管理をひと言でいうと…、

「みんながわかる 目的の達成度をはかるモノサシ」です。

＝もくじ＝

1 総合計画について.....	1
(1) 意義と役割.....	1
(2) 総合計画の位置づけ.....	2
2 総合計画の指標設定・進行管理の目的.....	3
(1) 総合計画の進行管理とは.....	3
(2) 進行管理が必要な理由.....	3
(3) 進行管理に指標が必要な理由.....	3
(4) 進行管理に施策体系が必要な理由.....	4
3 進行管理のための指標.....	4
4 進行管理について.....	5
5 指標設定の今後の取組み.....	6

1 総合計画について

(1) 意義と役割

総合計画(基本構想・基本計画)は、須坂市の将来目標と、その実現のための施策方針を明らかにするものです。

須坂市の総合的かつ計画的なまちづくりの指針であり、最上位計画に位置づけられます。

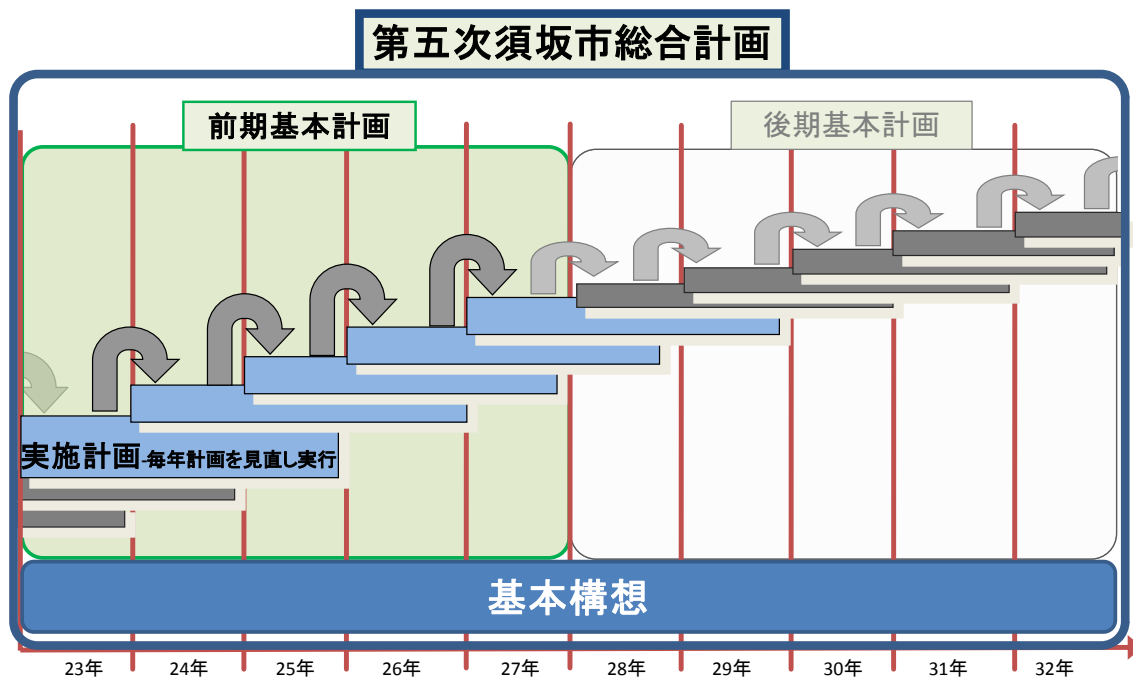
第五次須坂市総合計画では、須坂市をとりまく現状を踏まえ、目指すあるべき姿を定め、それに向けて実施する政策の方向性を明らかにします。

須坂市のこれからのまちづくりの方向を明らかにする最も基本となる計画として、市民のみなさんに計画づくりからに参加していただき、計画を通じ「住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思える須坂市を市民のみなさんと行政で共に創り続けます。

(2) 総合計画の位置づけ

第五次須坂市総合計画の構成＝「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」
須坂市が目指すまちづくりの基本を示します。

基本構想＞基本計画＞実施計画＞予算方針＞予算＞実施事業
の順でより具体的な取組み内容となります。



基本構想：【家づくりに例えると…住みやすい快適な家づくりへの思い】

これまでの経過や現状、課題を踏まえ、須坂市のまちづくりに対するベースとなる考えと目標とするまちの将来像
市民のみなさんとの共創による将来像の実現を果たす共通の約束として位置づけ

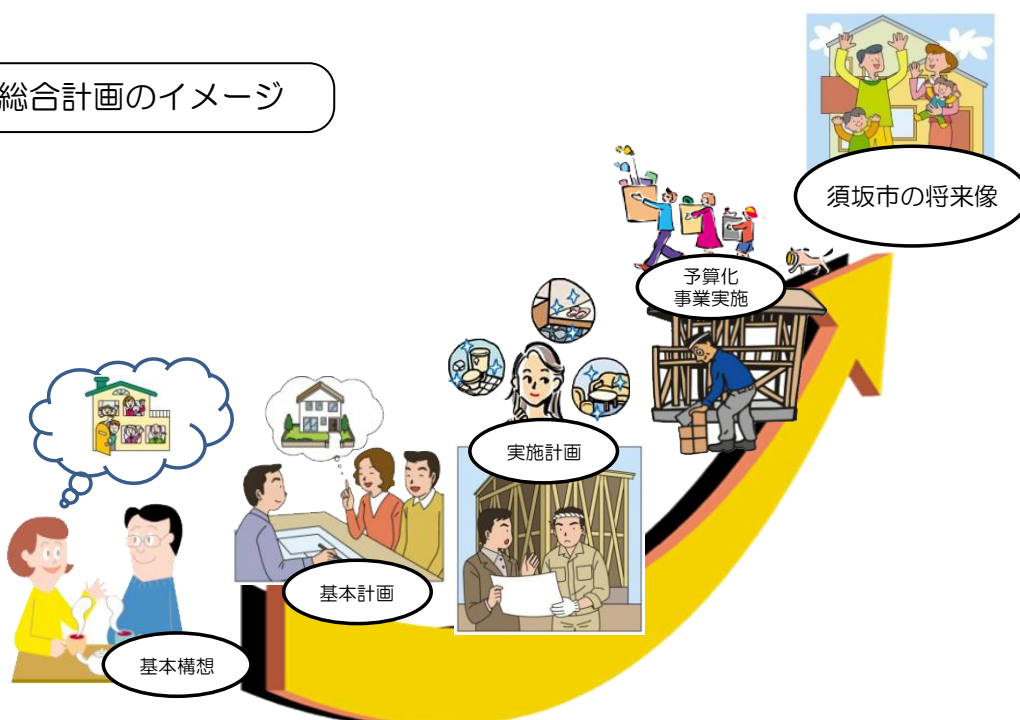
基本計画：【家づくりに例えると…家づくりに向けた設計】

基本構想で目標とした将来像を実現するため、現状や将来像を考えた上で実施すべきことの重要度や優先順位を定めた、実施する基本方針

実施計画：【家づくりに例えると…大工さんと家族の家づくり計画】

基本計画に掲げる方針を実現するための具体的な事務事業
毎年度の予算をつくる際の基本的な方針

総合計画のイメージ



2 総合計画の指標設定・進行管理の目的

(1) 総合計画の進行管理とは

- 総合計画に掲げる目的、目標の達成状況を確認・評価すること
- 総合計画に掲げる目的、目標の達成に向けて事業の改善を図ること

⇒そのためには、総合計画に基づく基本計画や実施計画を Plan とした PDCA サイクル（施策進行管理。Plan[計画]－Do[実行]－Check[評価]－Action[改善]の4段階の頭文字をつなげた進行管理方法。）を構築し、Check－Action の機能としての行政評価の導入と Check－Action に堪えうる総合計画（Plan）の策定が必要です。

(2) 進行管理が必要な理由

- 総合計画を核にした自治体経営をすすめるため
- 総合計画に基づく基本計画や実施計画を PDCA サイクルの Plan として機能させるため、総合計画の達成状況を報告する説明責任がある
- 社会情勢の変化が激しく、また財政状況が厳しさを増すなか、進行状況に応じた事業の見直しが求められている

(3) 進行管理に指標が必要な理由

- 進むべき方向や目標が共有できる
- 客観性が担保され、判断材料として使いやすい
- 目標達成までの進行管理がしやすい

(4) 進行管理に施策体系が必要な理由

「総合計画に掲げる目的、目標の達成状況を確認・評価すること」を有効にするために、「目的と手段」を分かりやすくする必要があります。

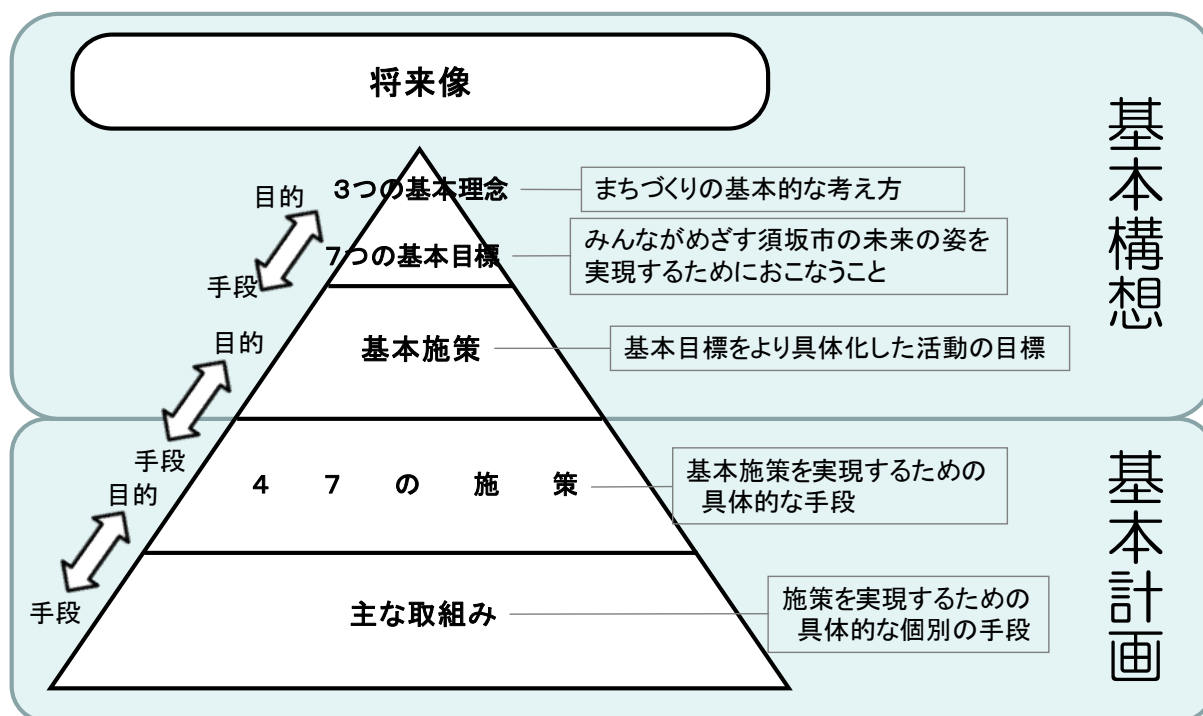
「この取組みは何のためにしているの？」

「これを実施したことで市民のみなさんとどのようなメリットがあるの？」

「将来のあるべき姿[将来像]を達成するために何をすればいいの？」

といったことが分かるように、施策を体系立てています。

【第五次須坂市総合計画の施策体系】



3 進行管理のための指標

第五次須坂市総合計画の進行管理を行うために「成果指標」「活動指標」を用います。

➤ 成果指標

「何をしたのか（結果）ではなく、その結果どうなったのか」を具体的な目標となる項目と、達成されるべき水準によりわかりやすく示し、取組みの成果を把握していくための指標です。

➤ 活動指標

資源(お金や人・労働時間など)を投入して、どんな活動を行ったのか、どのようなサービスを提供したのかなど、実施した活動量をあらわす指標です。

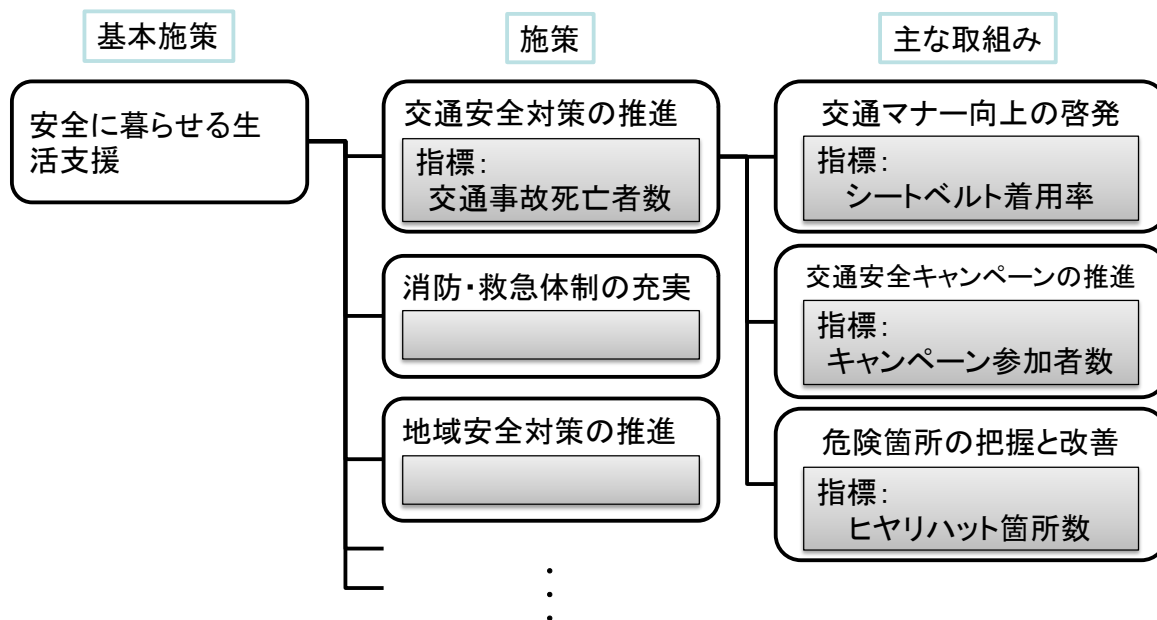
成果指標と活動指標の違い

成果指標に設定された事項 ⇒ 目的（「受益者」・「意図」）に対応

活動指標に設定された事項 ⇒ 手段（「対象」・「実施内容」）に対応

「施策」と「今後の取組み」について、以下のように指標を設定します。

【指標設定例】



4 進行管理について

設定した指標については、総合計画と事務事業評価(注)と連動し進行管理を行います。

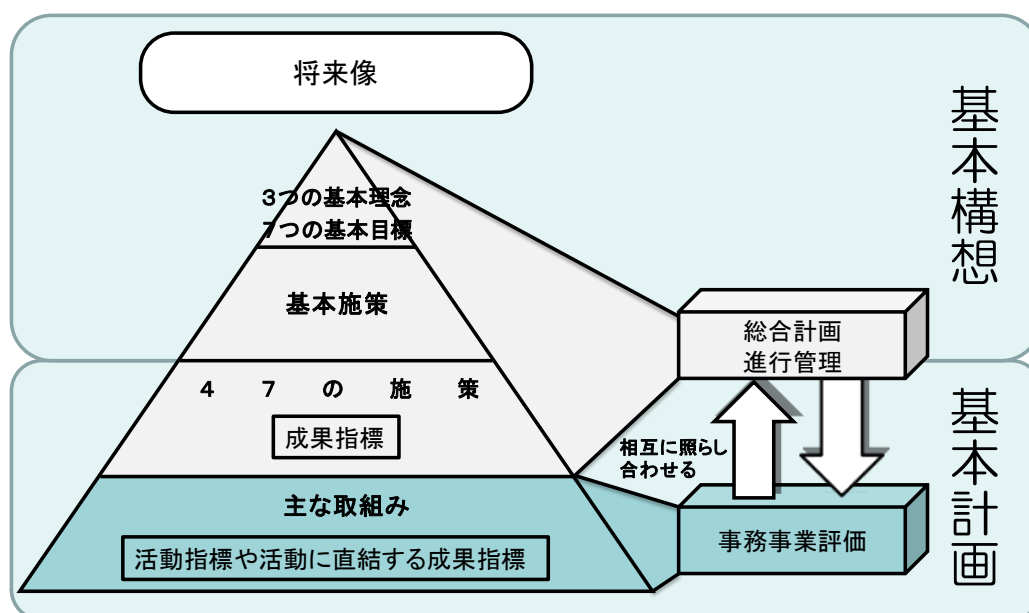
総合計画の進行管理と事務事業評価の関係は以下のとおりです。

	事務事業評価	総合計画の進行管理
定義	成果志向への体質改善や職員の意識改革を目的とする担当者のマネジメントツール	須坂市のまちづくりの方向性について議論に活用するためのコミュニケーションツール
評価の視点	妥当性、効率性、有効性など	施策の目的達成と手段となる主な取組みの構成の妥当性
評価の効果(機能)	事業の点検、事業の改善	施策や基本施策、基本目標の進捗管理・経営資源配分の基礎資料

(注) 事務事業評価

行政資源の有効配分や経営努力の目標設定など具体的な改善、見直し等を行うための判断に役立つ情報を提供することなどを目的に、個別の事務事業の必要性や効果、効率性等の評価を行うこと。須坂市では外部評価委員による評価も行なっています。

【第五次須坂市総合計画の施策体系との関係】



事務事業評価は「総合計画の進行管理」という目的を達成するための1つの手段と言えます。主な取組みの進行管理は、事務事業評価が担います。

「施策」の成果指標の進行管理が総合計画の進行管理となります。

「主な取組み」の活動指標や活動に直結する成果指標は、事務事業評価により総合計画の進行管理につながります。

指標を使い総合計画の目的や目標の達成状況を管理・評価することにより、各行政サービスの必要性・優先度を見極め選択して、資源（ヒト・モノ・カネ・情報など）投入の重点化につなげるマネジメントツールとなります。

また、市民のみなさんや企業、団体、行政など、まちづくりにかかわる様々な主体が、総合計画の目的や目標の達成状況を共有することにより、解決すべき問題を発見し、今後何を成すべきかといった方策を話し合う際のコミュニケーションツールにもなります。

5 指標設定の今後の取組み

第五次須坂市総合計画は平成23年度からスタートするため、現在策定中です。

総合計画の中には、職員だけではなく市民のみなさんにも今後のまちづくりの方向性をわかりやすく示すために、計画の取組み内容とその目標指標を示します。

総合計画の策定に合わせ、今後担当部署の意向を踏まえた上での指標設定の作成作業をすすめていきます。

5月17日～19日 …第四次総合計画・後期基本計画 目指そう値達成状況ヒアリング

5月26日 …第五次総合計画指標設定説明会開催

6月 …指標設定作業（各担当部署と政策推進課で調整し、作成）

7月 …総合計画審議会 専門部会において設定指標を審議